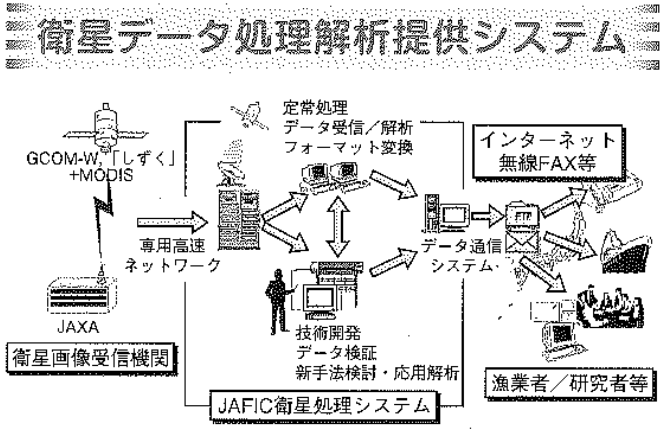
25年度水産白書（抜粋）

事例　人工衛星を活用して燃油を節減（(一社)漁業情報サービスセンター（JAFIC））

魚を効率的に漁獲するためには、海中にいる魚群がどこにいるのかを的確に知ることが必要です。漁船から近い範囲であれば魚群探知機が効果を発揮しますが、どの海域を目指して舵を切るべきかについては、漁労長の経験と勘に頼る時代が長く続いていました。

魚にはそれぞれ好む水温があり、海水温の地図をみればどこにどのような魚が集まっているかがわかります。(一社)漁業情報サービスセンターはこれに着目し、人工衛星から送られる海水温情報をもとに海水温の広域分布図を作成し、漁業者に送信するシステムを昭和60（1985）年に構築しました。これにより、情報を入手した漁船は目的とする漁場に直接出漁することが可能になり、燃油使用量の大幅な削減効果（平成18（2006）年～23（2011）年の実績では平均16.1％削減）を発揮しています。さらに、平成24（2012）年５月に打ち上げられた人工衛星「しずく」には、従来は困難であった雲の下の海水温の測定が可能なマイクロ波アンテナが搭載されており、海水温分布図の精度が大きく向上し、更なる効果が期待されています。

また、この技術は、「勘と経験の漁業」と「先端技術の宇宙開発」を結びつけ、漁業の近代化をもたらしたとして、平成25（2013）年度宇宙開発利用大賞内閣総理大臣賞を受賞しました。



(4) 将来 (ユーザの要求)

1)沿岸・分解能の技術開発

2)安定した継続性

①現在のAMSR2打ち上げ年2012年
(過去AMSR-Eは寿命9年の例)
②2021年にはAMSR3が必要
(2020年には打ち上げ成功)
③あと4年で準備 (早急の対応)